



みどりの風

平成25年5月1日発行
校報 第497号
〔みどりの風 第40号〕
練馬区立関町北小学校

見えぬものでもあるんだよ

校長 大野 泰弘

春風に誘われたかのように、タンポポの綿毛が校内のあちこちで気持ちよさそうに舞っています。先日は2年生がタンポポの観察に取り組んでいました。

ところで、タンポポと言えば、2年生の国語の教科書に「たんぽぽのちえ」という説明的文章が掲載されていますが、タンポポを見て、「みんなちがって、みんないい」という言葉で有名な金子みすゞさんの「星とたんぽぽ」という詩をふと思い出しました。かつてテレビのCMでも使われていたので、ご存知の方もいらっしゃるでしょう。

星とたんぽぽ

金子みすゞ

青いお空の底ふかく、

海の小石のそのやうに、

夜がくるまで沈んでる、

晝のお星は眼に見えぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬものでもあるんだよ。

散つてすがれたたんぽぽの、

瓦のすきに、だアまって、

春のくるまでかくれてる、

つよいその根は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬものでもあるんだよ。

「見えぬけれどもあるんだよ」、「見えぬものでもあるんだよ」という2行は、「眼に見えるものだけがすべてではない」、「眼に見えなくてもあると信じること」や「隠れているものにこそ思いを寄せること」の大切さを私たちに教えてくれているように思えます。

新しい学年が始まって、2ヶ月目を迎えます。教師も子どもたちも、1ヶ月間のかかわりの中で、互いの性格をはじめ、相互理解がより深まってきていることでしょう。そのような中で、5月になり、運動会の練習がよいよ本格化してきます。

子どもたちには、運動会の練習に力が入るでしょうが、それだけに追われることなく、身の回りの友達、自然、社会等にも眼を向けながら、日常生活の中で「見えても見えていないもの」を探り出し、「見えないけれども、何かがある」と考え、物事の本質を感じ取ったり、互いによりよく学び合ったりしていこうとする心を育ててほしいと思います。

そして、私たち大人も、子どもたち一人一人に隠されているよさや可能性、将来に向けて蓄えられている力、そして、今の思いや願い等にも注意深くなくてはならないと思います。運動会に燃える一方で、心の眼を研ぎ澄ますことにより、眼には見えない、子どもたちの心のうちを豊かに感じ取り、寄り添っていくことが肝要であると考えています。